

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100231		
法人名	特定非営利活動法人 リアル・リンク京都		
事業所名	柏野の郷 グループホーム(さくら)		
所在地	京都府京都市北区紫野中柏野町22番地		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援を目的に役割のある生活を送ってもらい今の状態を維持してもらおう心掛けている。</li> <li>・レクリエーションなどの行事を行い楽しみのある生活を送ってもらっている。</li> <li>・精神状態が不安定な時は傾聴して寄り添う事で安心してもらえるよう努めている。</li> <li>・自分だったらどうだろうと考え利用者様目線を意識しながら支援している。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノロ上る梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(もみじ)と同じ
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた生活を続けられるよう施設理念を基に共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に向かいの花屋や移動販売が来られた際に利用者様と花や食品などを購入している。 施設から千本釈迦堂まで散歩し、地域の方との触れ合いもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料と意見書を地域の方にも配布し地域の方への理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響に伴い、利用者家族からは手紙で意見を募り、地域包括とのZOOMでの運営推進会議となっている。そこでの意見を踏まえサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ZOOMでの研修を積極的に参加し区役所の方とわからない事やアドバイスを頂いている。 また、わからない事やZOOMでの参加で質問できなかった事を市役所の介護ケア推進課に連絡回答をもらい協力関係を気付けるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は法人内で委員会を立ち上げてたが、今期から施設での指針の作成を行い再確認する機会を作り身体拘束をしないケアは取り組んでいる。また、玄関にも資料を閲覧できるようにしている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待を行ったり疑わしい行為のみられていないが、外部研修・内部研修を行い職員の学び機会を増やしている。今度も続けていく事で見過ごす事のないよう努める。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様がおられ実践でも学ぶ事ができている。内部研修で取り入れてもらい深く学びたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容・重要事項説明書を全部読み契約してもらっている。 不安や疑問点などを聞き対応している。 はじめの関わりは不安が大きいと思うのでBPSD症状からどのように支援していくかなど説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ZOOMで運営推進会議を実施しており紫野包括支援センターの意見をもらった所はすぐに改善するようにしている。また、運営推進会議に参加できない御家族には資料と意見書を配布し意見を頂いた事も改善している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の主任会議・ユニット会議に参加。職員の意見や提案を職員と一緒に考え反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、有給休暇、リフレッシュ休暇の消化に努め、給与水準、労働時間、やりがいなどの職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には特に外部研修・内部研修を実施する機会を増やしている。中堅社員も同様に研修を行っている。働きながらのトレーニングも進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の勉強会の参加する事で地域密着協主催の研修などで同業者との交流を持ちその中で同業者の取り組みを聞き検討し当施設ではなにかできるか検討しサービスの質の向上を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時には、時間をとり不安や要望に耳を傾けている。見学を行い雰囲気を見てもらいどのようなケアを行っているか説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時には、時間をとり不安や要望に耳を傾けている。見学を行い雰囲気を見てもらいどのようなケアを行っているか説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を聞いたうえで、「認知症対応型共同生活介護計画書」を作成し確認してもらっている。往診・歯科往診の事もインテーク時に説明しているので医療機関との連携も行って対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎月の食事レクリエーションでは野菜を切ってもらったり、掃除・食器洗いなどできる事はしてもらうようにしている。		
		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスが落ち着いた時は、御家族と面会したり外出したりしていたが、R4・1/11から再度コロナウイルスで面会中止にした為、電話で御家族と話してもらったり手紙を書いてもらったり出来るだけ家族の絆を大切にしたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスが落ち着いた頃は、車で利用者様が行かれていた和菓子を買に行っていたがまた、コロナウイルスが流行してきたので、車から降りずにドライブに変更して支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立することが無いよう席の位置なども考え、レクリエーション等を通じて、利用者同士の交流を持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、転所先への情報共有を行い、ご本人・ご家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の方への思いや希望・暮らし方は自分で表現していく事は難しい為、利用者様との会話から引き出し他職員と情報共有しながら利用者様本位に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント(フェイスシート)で生活歴や生活環境・これまでのサービスの経過等はわかるようにしているが1回のアセスメントで全部が把握できない為利用者様と会話でこれまでの暮らしなどを聞き情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身状態などその日により変わる事もある為、観察し記録に残している。また役割をもってもらいその有する能力を現状どこまでできているか記録に残し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当を決め毎月の様子を記入するモニタリング用紙を活用している。又、ユニット会議でも利用者様のカンファレンスを毎月行う事で現状に即した介護計画を介護支援専門員が作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの実践・結果、気づきなど記録する際、計画書の第2表が見えるように工夫している。そのため、ユニット会議で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の利用者様のニーズは都度変化していく事が多いので、計画書の短期目標の期間は、1ヶ月・3ヶ月など短くしている。又、新たなニーズが出てきた時を見逃さず柔軟な支援の多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスが増えてきている中でも感染対策をしながら、施設内でボランティアの方に来て頂き歌を歌ったり、笑いヨガをしてもらう事で楽しみある暮らしをしてもらうよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族と相談の上、内科・歯科の定期往診を行い、ご家族へは随時往診の内容を報告している。協力医やNSとは24時間オンコール可能で、適切な医療を受けられる環境を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期発見に努めいつもと様子がおかしいとか転倒などは職場内の看護職員に報告し診てもらっている。訪問看護師とも連携をとり、往診に来てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを入院時に渡し、ここでの暮らし方や食事量・排泄・認知症状などはFAXや電話で情報共有している。病院からの質問や退院時カンファレンスにも参加し病院関係者との関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に一度終末期の希望を記載してもらっているが、いざ終末期が近づいていくと御家族の考えが変わる事もあるので御家族と話し合いを重ね事業所で出来る事を細かく説明しながら、方針を共有しながら関係者と支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の看護師が応急手当や初期対応の訓練を行い、急変や事故発生時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回コロナ禍の為、消防署の立ち合いなく、職員と利用者のみで昼間想定避難訓練を行っている。BCP作成に伴い火災・地震・水害のシミュレーションを予定している。地域の避難所にも活用できるように対策・検討し地域の拠点となるよう今後の動きで考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックや、不適切な声かけを中心に内部研修を実施している。人権・尊厳などを考え、自分だったらどう思うのかと言う事を念頭に置き対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援していく中で思いや希望が観察していきながら自己決定できるような声かけを行い働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースを理解し無理強いをせず自分の望む生活を送ってもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望の身だしなみやおしゃれができるように自由に選んでいただき、本人・ご家族のご希望があれば訪問理容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるようなにが食べたいか希望を聞き、食事レクリエーションを定期的に開催し、利用者様に食事の準備や片づけをし一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量を把握し、提供・声掛けを行い、ご本人のペースで食べて頂いている。食事量が少ない方へは栄養を確保できるよう職場内看護師と協力医へ報告・相談を行っている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食事後に口腔ケアを行い、口腔状態を確認し、ご本人・ご家族の希望があれば訪問歯科での定期的な口腔状態の確認、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を都度確認、記録し、パターンを把握し、排泄の失敗が無いよう声かけを行いなるべくおむつの使用を減らしている。その事自信に繋がり自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分摂取量を把握したうえで職場内看護師、協力医へ排便状態を報告・相談し、状態によって緩下剤を服用し、個々に応じた排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう、曜日や時間帯を柔軟に設定して行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ照明・室温・湿度など調整し安眠できるよう環境を整えている。又、日中休息を希望された際も支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬内容がわかるよう情報がわかるよう個別にファイリングし職員がいつでも見れるようにしている。また、主治医とこまめに連絡を取り変更時は記録に残すと共に、全職員に説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を生かせるよう行っていただける事をお願いしている。嗜好品はご本人・ご家族と相談して提供している。外出やレクリエーションで気分転換や生活を楽しんでいただけるよう支援している。		



京都府 柏野の郷 グループホーム(さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為ドライブへお連れしていたが、コロナウイルスの感染者数が落ち着いた10月より、近くの公園へ出かけて頂いたり、近くのお店へ一緒にいたり、御家族と外出して頂けるように支援している。面会中止になってからはドライブを企画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお預かりしている。ご本人・御家族のご希望があれば少額のお金を所持して頂いて買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望時には電話、手紙のやり取りが出来るよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間となるよう音、光、色、広さ、温度、湿度などを調節している。生活感や季節感を感じて頂けるよう壁に利用者様と制作した季節ごとの飾り物を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いている事で共有空間の中でも独りで過ごせる事ができ、気の合う人を思い思いに過ごせるよう席の配置など工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みの物・家具など置いていただき、過ごしやすい空間になるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーを作成して毎日日付けの確認をしたり 季節のわかる装飾品を置いたり、時計があったりとわかることを活用している。		